

泉大津市文化財調査報告46

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報30

2011・3

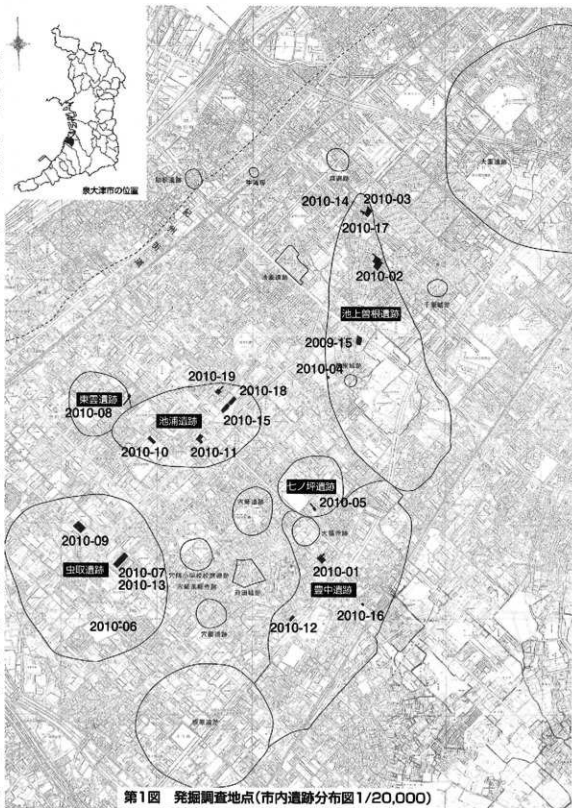
泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査既報は、泉大津市教育委員会が市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、国庫補助事業（補助対象経費1,300,000円、国庫補助率50%・市負担率50%）として泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本事業は平成22年度事業として、平成22年4月1日に着手し、平成23年3月31日に完了した。
4. 本調査は下記の構成で実施した。
調査主体者
泉大津市教育委員会教育長
道口源一
事務局
泉大津市教育委員会事務局
生涯学習課長 和田安広
生涯学習課文化財係
虎岡麻実 村田文幸
土江文子（嘱託 平成22年4月30日まで）
外業調査員 大向智子 豊島亨志
内業調査補助員
岸本和美 豊島亨志
野田由恵
5. 本書の座標は世界測地系を使用している。
6. 出土品および原図・写真類は、泉大津市教育委員会事務局が保管している。
7. 本書の編集・執筆は虎岡、上江が行った。
8. 虫取遺跡2010-09地点の発掘調査について、大阪府教育委員会文化財保護課技師 小川裕見子氏の指導・助言を頂いた。

目 次

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況	
1. 泉大津市の位置と環境	2
2. 埋蔵文化財調査の現状	2
第2章 発掘調査結果	
1. 豊中遺跡(2010-01、2010-12、2010-16)	3
2. 池上曾根遺跡(2009-15、2010-02、2010-03、2010-04、2010-14、2010-17)	3
3. 虫取遺跡(2010-06、2010-07-13、2010-09)	10
4. 七ノ坪跡(2010-05)	12
5. 東雲遺跡(2010-08)	12
6. 池筋遺跡(2010-10、2010-11、2010-15、2010-18、2010-19)	12
遺物観察表	15
発掘調査抄録	16



第1図 発掘調査地点(市内道路分布図1/20,000)



第2図 豊中遺跡展望

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に位置する。北部・東部は高石市と和泉市、南部は大津川を境として泉北郡忠岡町と隣接している。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

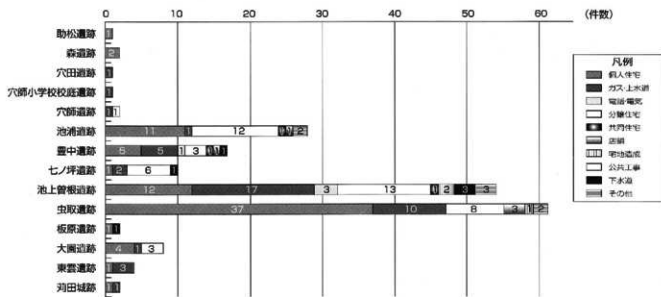
泉大津市は面積13.29km²、うち約4.2km²が公有水面の埋立地である。人口77,633人（平成23年1月1日現在）、東西5.4km、南北5.5kmにわたる都市である。昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年、臨海部の高層住宅や繊維工場跡地への分譲住宅の建設が進み、市の景観の変化は著しい。大規模開発は下火になっているが、本年度は、市内の主要道路沿線の開発が目立った。この傾向は、今後、続くと思われる。特に、市域北部の都市計画道路南海中央線建設がはじまったため、この沿線の開発が進むと想定される。

2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成22年1月～12月の期間に埋蔵文化財発掘届の提出があり、そのうち国庫補助事業により発掘調査を実施したものを対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出数は193件、うち20件を国庫補助事業として発掘調査を行った。

下図は、遺跡別工事件数の内訳のグラフである。遺跡別に届出件数を見ると、虫取遺跡、池上曾根遺跡、池浦遺跡の順で多く、上位2遺跡で総届出件数の6割を占める。工事内容で最も多いのは個人住宅（73件）38%、次いで分譲住宅（46件）24%、ガス・上水道（46件）24%で、この傾向は数年来変更がない。個人住宅は、昨年度調査した倉庫跡地への建設がはじまったため最多となっているが、基礎掘削が浅いためいずれも慎重工事となっている。主要地方道富田林泉大津線沿線、都市計画道路南海中央線沿線で、工場跡地の再開発や、店舗建替などに伴う届出件数増加の傾向が伺える。また、個人住宅は、改良杭や地盤改良が行われるケースが増加している。

本概報で報告する調査は、豊中遺跡3件、池上曾根遺跡6件、虫取遺跡4件、池浦遺跡5件、東雲遺跡1件、七ノ坪遺跡1件の合計20件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の試掘確認調査を行ったものである。うち、池上曾根遺跡と虫取遺跡で、それぞれ1件ずつ、本調査を実施した。これは、確認調査で遺構・遺物が顕著に確認できたため、調査面積を拡大して実施したものである。いずれも現場調査費用は、原因者に負担頂いた。



第3図 遺跡別工事件数内訳

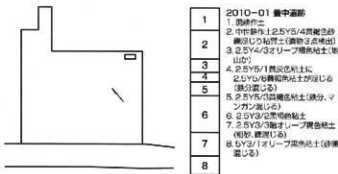
第2章 発掘調査結果

1. 豊中遺跡

豊中遺跡は、本市東部に位置し、東西0.6km、南北1.2kmの広がりを持つ。遺跡中心を南北に国道26号が走行し、遺跡の東部から南部は和泉市域に至る。国道26号周辺からは古墳時代、泉大津中央線周辺からは平安～中世の集落が確認されている。本年度は、3件の調査を実施したが、若干の遺物の検出にとどまり、遺構の確認には至らなかった。

2010-01 (泉大津市豊中町956-5の一部 平成22年1月22日調査 調査面積3.1㎡)

鉄筋コンクリート造2階建て福祉施設建設に先立つ調査である。当該地は、豊中遺跡の中央北西よりにあたる。申請地内の建物部分に幅1.2m、長さ2.6mのトレンチを設定し、重機で1.8mまで掘削した。中世の耕作土と思われる黄褐色砂混じり粘質土から3点の遺物が出土した(第4図)。いずれも瓦質の鉢の破片である。遺構は確認できなかった。



第4図 2010-01 トレンチ位置(1/600)・柱状図(1/20)

2010-12 (泉大津市豊中町3丁目115番11、115番29 平成22年8月11日調査 調査面積5㎡)

鉄骨造平屋建て店舗の増築に先立つ調査である。当該地は、東で国道26号に接し、昭和50年代初頭に埋め立てられるまで古池とよばれる溜池の一部で、敷地西側に接する道路は、その堤防であったと思われる。申請建物基礎掘削の0.7mまで重機で掘削を行う。すべて

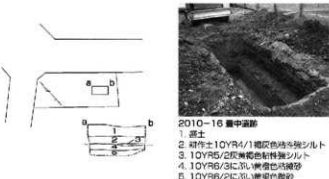
盛上で掘削最深部にアスファルトが敷かれており、遺構・遺物は確認できなかった。



第5図 2010-12トレンチ位置(1/2,400)

2010-16 (泉大津市東豊中町2丁目972番4の一部 平成22年11月22日調査 調査面積5.95㎡)

鉄骨造2階建て共同住宅建設に先立つ調査である。当該地は、豊中遺跡の中央やや東よりにあたる。東に約0.6mでJR阪和線に接する。申請地内の建物部分に幅1.7m、長さ3.5mのトレンチを設定し、重機で掘削した。地表面から約0.5mまでは、盛土、以下、耕作土、床土、黄橙微砂、灰黄褐色シルトに至る。遺構・遺物は確認できなかった。



第6図 2010-16トレンチ位置(1/800)・土層断面図(1/80)

2. 池上曾根遺跡

池上曾根遺跡は、本市曾根町・森町・千原町と和泉市池上町に所在する。遺跡面積は約105ヘクタールで、このうち約11.5ヘクタールが国指定史跡となり、中心部の3.5ヘクタールが第一期整備を経て池上曾根史跡公園となっている。

本年は6件の報告を行う。2009-15地点は、平成21年度版報に調査概要を掲載したが、今回は、遺構、遺物とともに詳細を報告する。-02、-03地点では遺物が、2010-17地点では、遺構と遺物がそれぞれ確認できた。-04、-14地点は個人住宅建設に先立つ調査であったが、遺構、遺物は確認できなかった。

2009-15 (衆大津市曾根町1丁目98-1, 99-1, 100-1, 402-8 平成21年12月25日~平成22年1月6日調査 調査面積19㎡)

史跡池上曾根遺跡の指定地西隣にあたる。店舗建設に伴う調査で、昨年度の概報に調査箇所、断面図などを掲載した。今回は、遺構平面図及び出土遺物を掲載し、その詳細を述べる。府道沿いの看板建設箇所を第1トレンチ、建物建設箇所を第2トレンチとした。

【第1トレンチ】調査面積は6.7㎡である。土層断面の観察から、西側へ向かって落ち込む層が見られる。攪乱で全容は不明であるが、自然地形の落ち込みと思われる。

【第2トレンチ】建物基礎が遺構面を損壊する可能性のある範囲を、確認調査トレンチを拡張して調査を実施した。調査面積は、1区(幅1.1m×長さ9.2m)、2区(幅1.1m×長さ3.2m×幅1.2m×長さ8.7m)、3区(幅1.1m×長さ3.6m)の合計28.04㎡である。

地表下約0.4mで中世の遺構面を検出した。遺構は溝、ピット、土坑など、断面で確認したものも含め、26基であった。概ねT.P.9.3~9.4m付近で検出し、3層(にぶい褐色粘質土)、24層(オリブ砂質土)をベースとしている。平面で確認したピットは21基で、うち11基を半載し、実測した。これらは、規模から大・中・小3種類に分けられる。大は直径が50cmを超えるもの(遺構番号2、9)、中は直径30cm後半から40cm後半のもの(遺構番号8、11、12、14、15-1)、小は直径30cm以下のもの(遺構番号13、16、17)である。平面形態はいずれも不定形な長楕円を呈する。底に根石を据えるもの(遺構番号15-1)も見られたが、建物の構成まではわからない。また、工事掘削深度までの調査であるので、地山は未確認であり、更にこの下層に遺構面のある可能性も考えられる。

【第1トレンチ出土遺物】1~25(第8図、第9図)である。1~12は、西側へ向かう落ち込みの内部から、13~18は、壘土直下の暗褐色粘質土、19、21~23は、落ち込み内の土層から、20は地山直上層、24、25は残土からそれぞれ検出した。

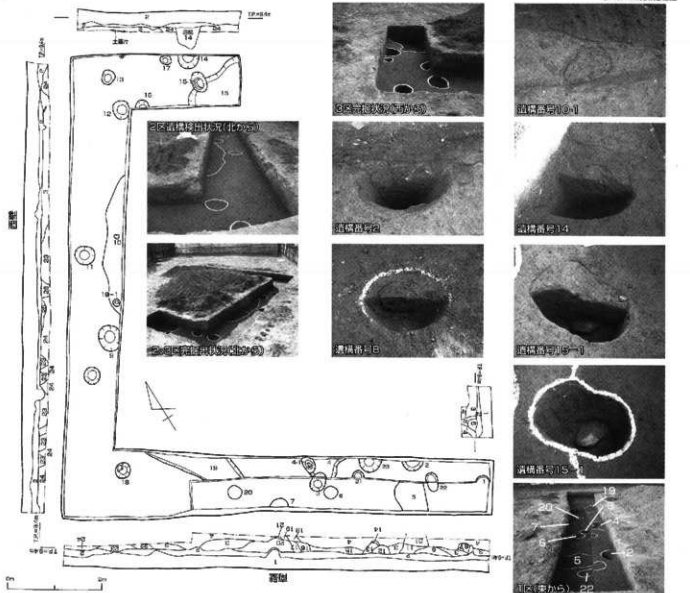
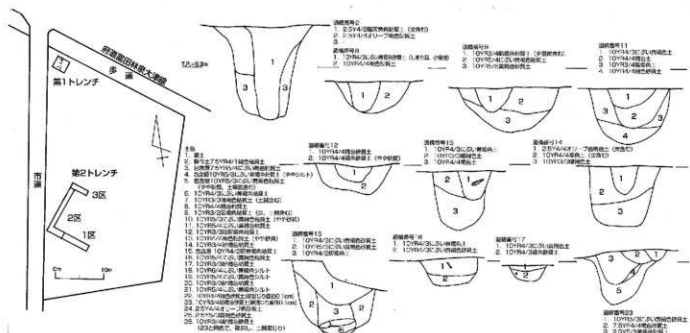
1は、直口壺で、復元口径18cm、器高32cmを測る。2は、肩部に横方向のハケ目が見られる布留形の甕。3は、口縁端面がわずかに外反する。8は、小型の碗形高坏で、器高6.0cm、脚底から坏部底までの高さは2.0cmを測る。12は小型器台の脚部で3方向に透かしが

認められる。15は直口壺で、扁球形の体部を持ち、内外ともに粘土紙の継目が顕著にみられる。20は複合口縁の壺で口径13.8cmを測る。22は、小型器台の口縁部で、復元口径は11cmである。25は、小型丸底器で扁球形を呈する。表面は剥離が顕著であるが、精緻なつくりである。

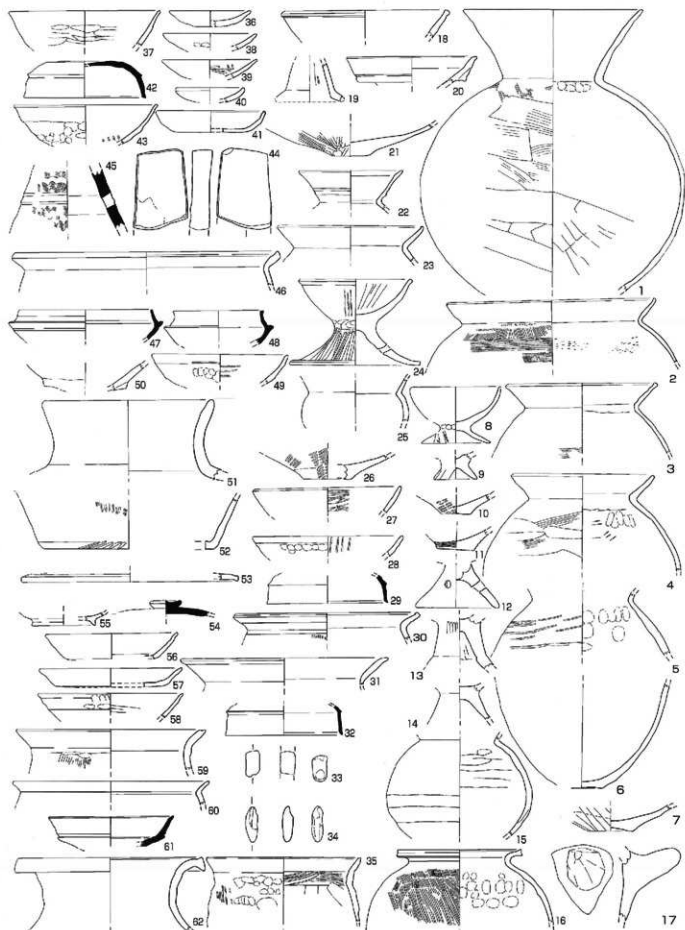
【第2トレンチ出土遺物】26~62(第8図、第9図)31~34は1区の遺構面精査時に検出した。32は、5世紀後半~6世紀の坏蓋、33・34は、土師質の棒状土鍾である。36・37は遺構2、42は遺構5の壘土、38・39は遺構9、40・43~46は遺構10、41は遺構23、47~52は遺構19からそれぞれ検出した。36、38~40は土師器小皿で、36、38、39は復元口径が8~10cm、40はやや小さく7.2cmを測る。器高はいずれも1~2cmである。41は土師器坏で、復元口径11cm、器高2.3cmを測り、口縁内外面はヨコナデ、内面底部に指おさえが認められる。42は坏蓋で5世紀中頃。37、43、49は瓦器碗である。37は復元口径16.8cmを測る。43は復元口径15cm、49は復元口径14.5cm、いずれも内面に暗文、外面に指おさえが認められる。44は砥石で、色調は内外面ともに灰白色。37は、52は、甗の底部で孔が部分的に残る。また、火を受けた痕跡も認められる。55~61は機械掘削時、62は表探からの検出である。55は土師器碗の高台部である。

【まとめ】第1トレンチの落ち込みは、調査面積が狭いため断定は出来ないが、自然地形の可能性が高い。出土遺物から3世紀後半と比定する。当該地は、2010-17地点と同様に、曾根神社の北50m付近から北へ伸びる微高地上に位置する。この微高地は、弥生時代後期~古墳時代初期までの横尾川本流系による形成されたと推定されるが、この時期のものと考えられる。

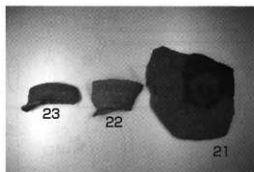
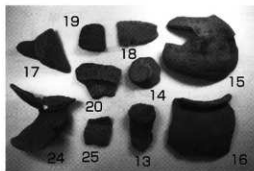
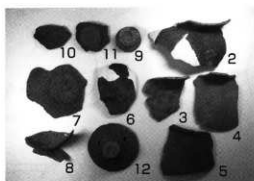
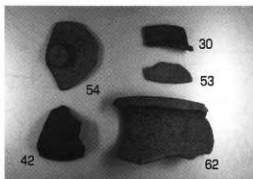
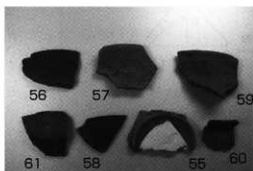
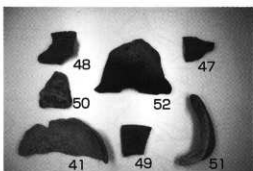
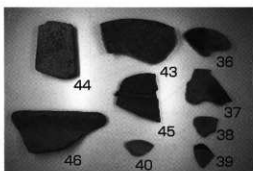
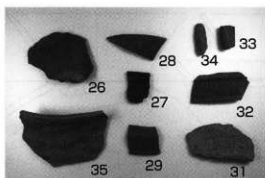
第2トレンチの建物構成は不明であるが、2009-06地点の都市計画道路南海中央線建設に伴う調査で確認された中世の耕作溝、あるいは、曾根城跡に関連する遺構の可能性があると推測する。



第7図 2009-15 トレンチ位置(1/800)・遺構平面図(1/80)・遺構断面図(1/20)



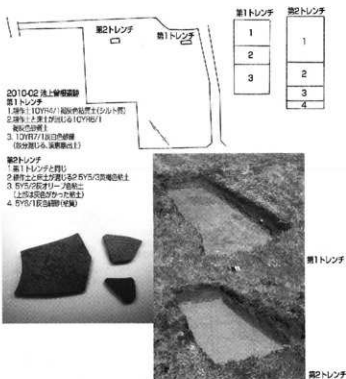
第8図 2009-15 第1トレンチ(1~25)、第2トレンチ(26~62)遺物実測図(1/4)



第9図 2009-15 第1トレンチ(1~25)、第2トレンチ(26~62)写真

2010-02 (泉大津市森町2丁目253-1、254、255-1、256-1、256-3、256-4 平成22年3月29日調査 調査面積9.0㎡)

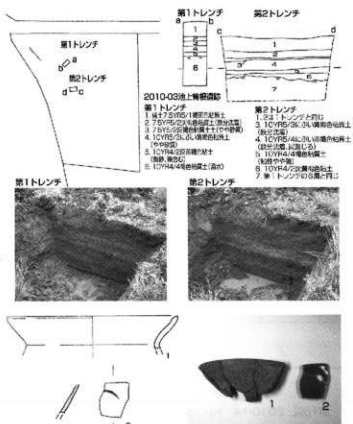
木造2階建て寄宿舍建設に伴う調査である。池上曾根遺跡の北部東端に位置する。敷地の北部に第1トレンチ(幅1.3m、長さ3.4m)、南部に第2トレンチ(幅1.4m、長さ3.3m)を設定し、現地表面より約50cm掘削した。第1トレンチの最下層は、灰白色砂礫で須恵器破片が認められた(第10図)。両トレンチとも、耕作土、床土の下層は、砂層、もしくは砂礫層である。氾濫原的な様相が認められる。



第10図 2010-02 トレンチ位置(1/1,600)、土層柱状図(1/20)、遺物写真

2010-03 (泉大津市森町1丁目59番、91番の各一部 平成22年4月27日調査 調査面積4㎡)

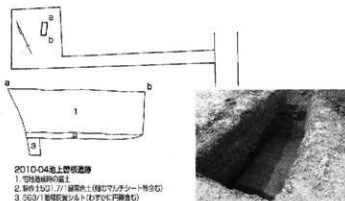
鉄骨造3階建て有料老人ホーム建設に先立つ調査である。池上曾根遺跡の最北部東縁に位置する。敷地北部に第1トレンチ(幅1.0m、長さ2.0m)、第2トレンチ(幅1.0m、長さ2.0m)を設定し、現地表から1.3m掘削した。第1トレンチは、現耕作土の下に、中世以降の包含層が3層堆積する。にぶい黄褐色粘質土層から青磁片が出土した。第2トレンチは、中世以降の包含層が2層堆積する。その下層の土師器を含む層は古墳時代の包含層と想定できるが、両トレンチとも遺構は確認できなかった。遺物は、布留式土器の口縁部と青磁碗の口縁部(第11図)が出土した。



第11図 2010-03 トレンチ位置(1/1,200)、土層断面図(1/40) 遺物実測図(1/4)

2010-04 (泉大津市曾根町2丁目189-1、189-6 平成22年5月25日調査 調査面積3㎡)

木造2階建て個人住宅建設に先立つ調査である。史跡指定地西端から西へ約90mの地点に位置する。長さ3m、幅1mのトレンチを設定し、重機にて約1mまで掘削を行ったが、この掘削深度内ではすべて盛土、耕作土であったため、トレンチの北端を人力で約30cm掘り下げた。ここからは、湧水があったため水中ポンプを利用した。耕作土は、約10cmで、近年まで耕作していたと思われる。床土は認められず、その下層は、暗緑灰色シルト層で遺構、遺物は認められない。



第12図2010-04トレンチ位置(1/800)、土層断面図(1/80)

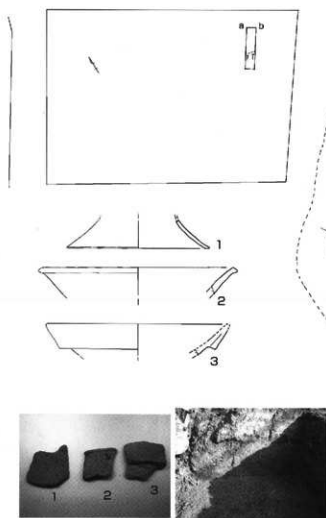
2010-14 (泉大津市東助松町2丁目359-8 平成22年9月13日調査 調査面積2m)

木造3階建て個人住宅建設に先立つ調査である。池上曾根遺跡最北部の西縁辺に位置する。長さ2m、幅1mのトレンチを設定し、重機にて約1.1m掘削を行った。トレンチ内の堆積は、現地表土の盛土、旧耕作土2層、にぶい黄褐色粘性の強い微砂、最下層は砂礫であった。ここからは、激しい湧水があったため水中ポンプを利用した。遺構・遺物は認められない。



- 2010-14池上曾根遺跡
1. 盛土
 2. 耕作土5Y3/1オリーブ黄褐色粘質シルト
 3. 5Y5/28オリーブ黄褐色粘質シルト
 4. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト
 5. 10YR5/4にぶい黄褐色粘性強微砂
 6. 10YR5/1灰色砂礫(粒径2cm)

第13図 2010-14 トレンチ位置(1/400)、土層柱状図(1/80)



第14図 2010-17 トレンチ位置(1/400)、平面図、土層断面図(1/40)、遺物実測図(1/4)

2010-17 (泉大津市森町1丁目55番2 平成22年11月29日調査 調査面積4.4m)

鉄骨3階建て共同住宅建設に先立つ調査である。池上曾根遺跡最北部に位置する。敷地東側に長さ4.4m、幅1mのトレンチを重機にて掘削する。層位は、盛土～床土、黄橙微砂、黄褐色シルト、黄橙微砂に至る。下層の黄橙微砂で、東西0.8m、南北0.6mの土坑を確認したため西に拡張するが、攪乱で全容確認はできなかった。土坑の平面規模は、東西0.8m、南北0.6m、深さ西側0.9m、東側0.32mで、東側に深い。土坑埋土の上部に土師器片を含む。このうち3点を図示する。1は、高坏脚部で復元底径は15cm。2は高坏坏部で復元口径は20cm。口縁端部に若干折り返しが認められる。3は複合口縁壺の口縁部で復元口径は19.4cm。3点とも磨滅が激しい。弥生時代後期後半と比定される。

当該地は、延喜式内社曾根神社の北50m付近から北へ伸びる微高地上に位置する。この微高地は、弥生時代後期～古墳時代初期までの横尾川本流系の水流により形成されたと推定されるが、検出した遺構・遺物は、この時期のものと考えられる。



- 2010-17池上曾根遺跡
1. 盛土
 2. 耕作土2.5Y4/1灰黄色シルト
 3. 10YR5/2Cにぶい黄褐色粘質微砂
 4. 10YR5/4Cにぶい黄褐色粘質微砂
 5. 10YR5/3Cにぶい黄褐色粘質微砂
 6. 10YR5/3Cにぶい黄褐色粘質微砂
- 土坑
1. 10YR4/2黄褐色粘質土
 2. 10YR5/2Cにぶい黄褐色粘質土
 3. 10YR5/3Cにぶい黄褐色粘質土



遺構検出状況



遺構掘削状況



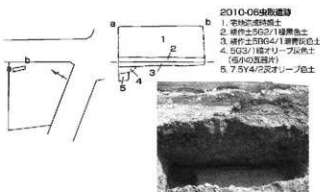
遺構完成状況

3. 虫取遺跡

虫取遺跡は池上曾根遺跡に次ぐ面積を有し、耕作地が比較的多く残るが、近年は開発が進む。本年度は4件の調査を実施し、うち2件で遺構・遺物を確認した。

2010-06 (泉大津市我孫子2丁目211番9 平成22年6月17日調査 調査面積1.4㎡)

木造2階建て個人住宅建設に伴い、柱状杭による地盤改良が実施されるため調査を行った。虫取遺跡の中心からやや東に位置する。幅0.8m、長さ1.8mのトレンチを設定し、約1m掘削を行った。現地表面より0.6mは盛土、ほぼ水平の堆積で0.08mの旧耕土、0.14mの暗オリブ灰色土、0.2m以上の灰オリブ色土に至る。暗オリブ灰色土は、極小の瓦器片を含むが、これ以外に遺構・遺物は、確認できなかった。



第15図 2010-06 トレンチ位置(1/800)、土層断面図(1/80)

①2010-07 (泉大津市我孫子1丁目421、422-1 平成22年6月21日調査 調査面積20.5㎡)

②2010-13 (泉大津市我孫子1丁目421、422-1 平成22年8月30日調査 調査面積1.7㎡)

虫取遺跡の中心部からやや東に位置する。鉄骨造1階建店舗建設に伴う調査である。①建物建設箇所、②看板設置箇所とし、以下に報告する。

①南から順に1~3のトレンチを設定し、調査を行った。いずれのトレンチも、現地表面から0.7~0.8mは宅地造成時盛土、以下、旧耕土が2層みられる。土層断面でも、現地表面から約1mで弥生時代の包含層及び遺構面に達することを確認した。

【第1トレンチ】旧耕土下層に0.8~0.12mの灰色系粘土、その下層に0.1~0.14mの包含層、さらに遺構検出面に至る。遺構は、幅0.7m以上深さ0.3m以上の溝状遺構である。南北方向に延びると想定できるが全容は不明。包含層及び遺構に含まれる土器は弥生土器が多

くみられる。遺物は、灰色粘土層からの出土である。1、2、4は甕、3は小型の鉢、5は甕底部、6は器台脚部と思われる(第16図)。

【第2トレンチ】旧耕土下層にシルト層があり、その下層が遺構検出面である。遺構はピット状で複数の切りあいが見られる。単独の遺構は最大幅0.4m、深さ0.6m以上。遺構内で弥生土器1点を検出した。

【第3トレンチ】旧耕土の下層が遺構検出面で、幅0.65m、深さ0.28mのピット状遺構を確認した。遺物は確認できなかった。

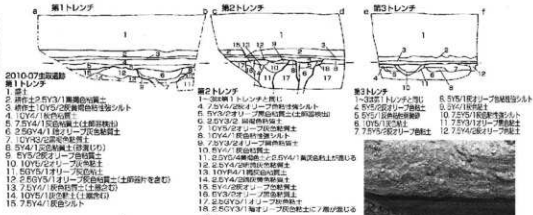
現状の工事内容では、遺構面を損壊するため、発掘調査の実施が設計変更かの協議を行った。協議後、申請者が設計変更を申し出たため、基礎掘削は現地表面から1mを厳守する事、工事着工時には職員が立ち会い、これを確認する事を条件とした。平成22年7月21日に上記内容での工事着手を確認した。

②敷地南側に、高さ10m、基礎平面3.2×2.2m、掘削深度1mで予定され、この部分を調査した。上部から0.7mは盛土、その下層に0.2mの耕作土。その下層は、灰色粘土でマンガン斑を多く含むが、これも耕作土の可能性がある。瓦器小破片2点確認できた。基礎はこれ以上掘削しないことを確認して終了した。

2010-09 (泉大津市虫取町1丁目77番1 平成22年7月15日、7月20日~7月26日調査 調査面積38.8㎡)

鉄骨造2階建店舗建設に伴う調査である。敷地北側に重機で、幅2m、長さ9.6mのトレンチを設定した。西端で約1.5mの深さまで掘削したところ、土師器等の破片を検出した。その後、さらに東へ掘削を進めたところ現地表面から深さ約1.2mで、須恵器を検出した(第17図、5)。脚部が上、坏部が下を向いた状態であった。この層を精査し、南側に土層観察用のトレンチを人力にて掘削する。この須恵器検出層を含め4面の遺構面を確認し、遺物100点以上を検出した。改めて報告を行うものである。

遺物4点は須恵器で、1~3は5と同じ層から検出。1は坏身で復元口径13.8cm、器高5.0cm。5は長脚に2段透かしが3方向にある高坏で、口径15.3cm、底径14.9cm、高さ21.8cm。須恵器はいずれも6世紀の所産である。4は、土層観察用のトレンチから検出した布留式の甕で、段を有する頸部から直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。復元口径は18.0cm。

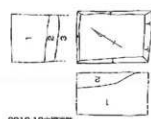


2010-07土層断面
第1トレンチ

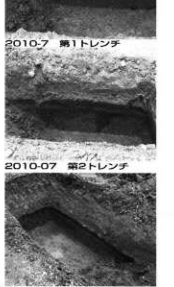
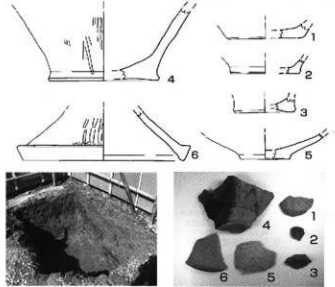
- 1 盛土
- 2 赤土 (CV5/2) 黄褐色粘土質シルト
- 3 赤土 (CV5/2) 黄褐色粘土質シルト
- 4 CV4/1 灰白色土
- 5 7.5V4/1 灰白色土 (土層断面)
- 6 2.5V4/1 灰白色土
- 7 CV4/3 灰白色粘土
- 8 2V4/1 灰白色粘土 (厚さ10)
- 9 5V5/2 灰白色粘土
- 10 10V5/2 灰白色粘土
- 11 5V5/1 オリーブ褐色土
- 12 2.5V5/1 オリーブ褐色粘土 (土層断面をきむ)
- 13 7.5V4/1 灰白色土 (土層断面)
- 14 10V5/1 灰白色土 (土層断面)
- 15 7.5V4/1 灰白色土

- 第2トレンチ
- 1 赤土
 - 2 赤土 (CV5/2) 黄褐色粘土質シルト
 - 3 赤土 (CV5/2) 黄褐色粘土質シルト
 - 4 7.5V4/2 灰白色土
 - 5 5V5/2 オリーブ褐色粘土 (土層断面)
 - 6 2.5V5/2 オリーブ褐色粘土
 - 7 CV5/2 オリーブ褐色粘土
 - 8 CV4/1 灰白色粘土
 - 9 7.5V3/2 オリーブ褐色粘土
 - 10 赤土
 - 11 5V5/2 灰白色土 (厚さ10)
 - 12 2.5V4/2 灰白色粘土
 - 13 10V5/1 灰白色粘土
 - 14 2.5V4/2 灰白色粘土
 - 15 5V5/2 オリーブ褐色粘土
 - 16 5V5/3 オリーブ褐色粘土
 - 17 2.5V5/3 オリーブ褐色粘土
 - 18 2.5V5/3 オリーブ褐色粘土 (土層断面をきむ)

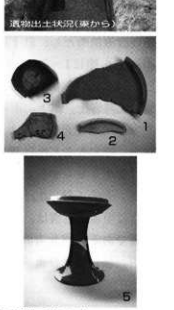
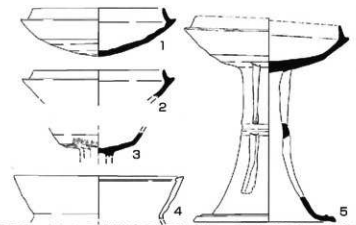
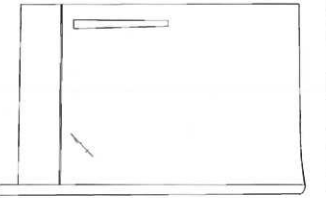
- 第3トレンチ
- 1 赤土
 - 2 赤土 (CV5/2) 黄褐色粘土質シルト
 - 3 赤土 (CV5/2) 黄褐色粘土質シルト
 - 4 5V5/2 オリーブ褐色粘土
 - 5 5V5/1 灰白色粘土
 - 6 10V5/1 灰白色粘土
 - 7 5V5/2 オリーブ褐色粘土
 - 8 5V5/1 オリーブ褐色粘土
 - 9 2V5/1 灰白色粘土
 - 10 7.5V5/1 灰白色粘土
 - 11 7.5V5/1 オリーブ褐色粘土
 - 12 7.5V4/2 灰白色粘土



2010-13土層断面
1 盛土
2 2.5 V5/1 黄褐色粘土質シルト
3 2.5V5/1 灰白色土 (マンガン鉄を多く含む)



第16図 2010-07,2010-13 トレンチ位置(1/1,200)、土層断面図(1/80)、遺物実測図(1/4)



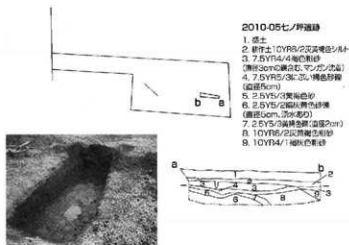
第17図 2010-09 トレンチ位置(1/800)、トレンチ平面(1/160)、遺物実測図(1/4)

4. 七ノ坪遺跡

七ノ坪遺跡は、市中央部からやや東に位置する。半径約0.1mの範囲を有する。東で豊中遺跡に、北で池上曾根遺跡に隣接する。本年度は、個人住宅1件の調査を実施した。

2010-05 (泉大津市北豊中町2丁目467番1、467番3、470番1の一部 平成22年6月7日調査 調査面積2.7㎡)

七ノ坪遺跡の中心からやや南に位置する。木造2階建個人住宅に先立つ調査である。敷地内に幅0.9m、3mのトレンチを設定し、重機で掘削した。現地表土から0.2mは盛土で、その下層に0.1mの旧耕土があるが床土は認められない。この下層は粗砂～砂礫層が堆積する。最下層から湧水があった。遺構・遺物は確認できなかった。当該地の西側で接する道路の水道管埋設時の調査で河川が認められており、これに関連する堆積と思われる。



第18図 2010-05 トレンチ位置(1/600)、土層断面図(1/80)

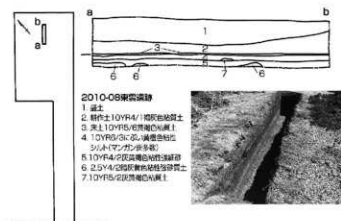
5. 東雲遺跡

東雲遺跡は、市域で最も西に位置する。半径150mの範囲を有し、東で池浦遺跡に接する。個人住宅1件の調査を実施した。

2010-08 (泉大津市下条町252-1番地の一部 平成22年6月28日調査 調査面積12.8㎡)

東雲遺跡の東端に位置する。鉄骨造2階建個人住宅建設に先立つ調査である。敷地内に幅1m、6mのトレンチを設定し、深さ約1mまで重機で掘削した。現地表面から0.5mは盛土で、その下層に0.2mの旧耕土がある。その下層に0.1mの床土、さらにマンガン斑を多数含むシルト層、細砂に至る。この2層とも耕土の可能性が高いと思われるが、土器が確認できなかったため

時期は不明である。遺構は確認できなかった。



第19図 2010-08 トレンチ位置(1/1,200)、土層断面図(1/80)

6. 池浦遺跡

池浦雲遺跡は、市のほぼ中央部に位置する。東西750m、南北450mの長楕円の範囲を有する。本年度は5件の調査を実施した。このうち、市立中学校校舎新築外2件の調査で遺物を確認したが、確認調査にとどまった。

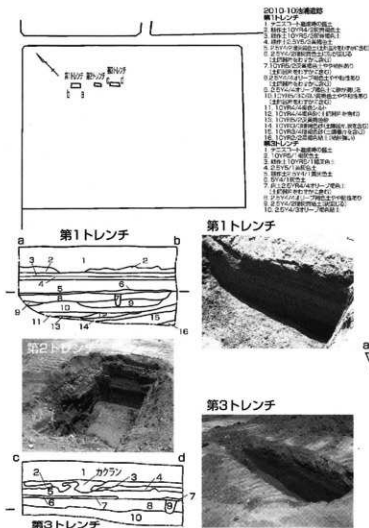
2010-10(泉大津市池浦町4丁目169-1・175-1・176-177・178-2・179-2・180-181・182-487-2-489-3、我孫子486-1、486-2 平成22年7月26日調査 調査面積25㎡)

中学校敷地内テニスコートで、校舎新築に先立ち調査のため、北から南へ3箇所のトレンチを重機で設定し、調査を実施した。

【第1トレンチ】旧耕土が3層あり、その下層に溝状の堆積が認められる。これは、土師器を含む。約2m掘削したところ、壁が倒壊したため埋め戻す。下層は、植物根が認められる。

【第2トレンチ】建物基礎が認められる。テニスコート造成以前のもと思われる。湧水が激しく、トレンチ全体が混乱である。図面の作成は行わなかった。

【第3トレンチ】第1トレンチとはほぼ同様のレベル出土層断面にビット状の遺構が確認できるが、遺物は全く検出できなかった。



第20図 2010-10 トレンチ位置(1/2,400)、土層断面図(1/80)

2010-11 (泉大津市池浦町4丁目134番4、319番4 平成22年8月2日調査 調査面積12.5nf)

寄宿舎建設に先立つ調査。エレベーター部分の掘削にあわせこの部分にトレンチを設定する。現地表面から0.8mは、すべて盛上であったため、その下層を確認する。旧耕作土、旧床土、その下層に黄褐色土があり、この上部には、須恵器、土師器がわずかに含まれる。以下、部分的に砂層が混じり、検出の最下層も砂層である。遺構は認められない。

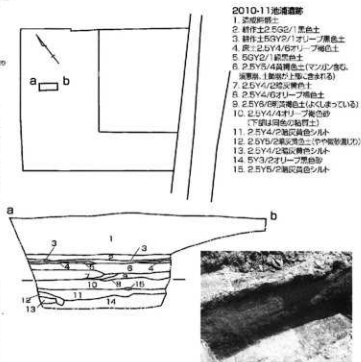
2010-15 (泉大津市海町39番4 平成22年9月27日調査 調査面積8nf)

分譲住宅の宅地造成に先立つ調査で、道路建設部分に北から第1トレンチ、第2トレンチを重機で設定する。両トレンチとも2m四方で、1.5mまで掘削を行う。

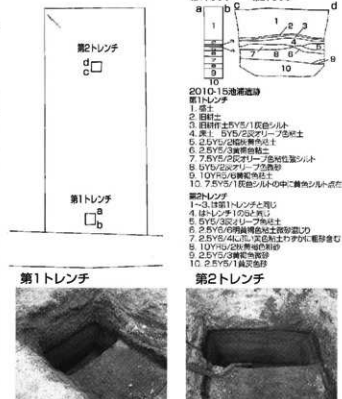
【第1トレンチ】約50cmの盛土、旧耕作土が2層、床土、黄褐色粘土、灰オリブ粘性シルト、灰オリブ微砂、黄褐色粘土、最下層の灰色シルトに至る。この層は、黄色の斑文が点在し、植物根と思われる。

【第2トレンチ】盛土以下、旧耕作土が2層、暗灰黄

色粘土まで、第1トレンチと同じ堆積である。以下、粗砂、微砂等砂層の堆積が見られる。また、湧水もある。いずれのトレンチも遺構、遺物は認められない。現況地表面から約1.5mまでは、耕作土を除き、人為的な土地の利用は確認できない。



第21図 2010-11 トレンチ位置(1/1,000)、土層断面図(1/80)

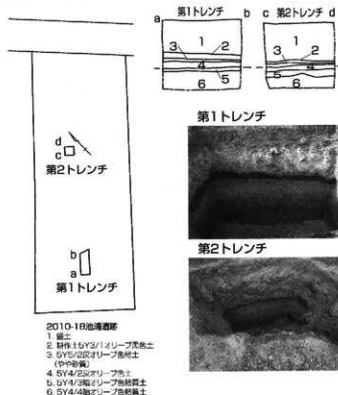


第22図 2010-15 トレンチ位置(1/800)、土層柱状図、断面図(1/80)

2010-18 (泉大津市寿町39番1 平成22年12月1日調査 調査面積12.8㎡)

鉄骨2階建て有料老人ホーム建設に先立つ調査で、南側で2010-15地点と接する。2箇所の特レンチを設定し、建物の基礎予定1.2mの深さまで重機で掘削を行う。

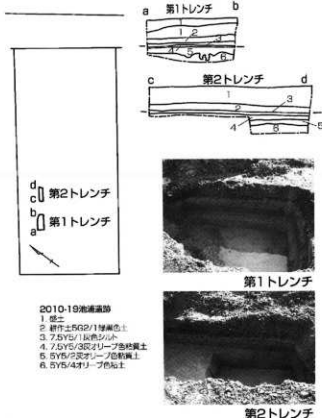
上層は0.6~0.7mは、盛土、以下の黒色土、灰色オリーブ土はいずれも耕作土、その下層は暗オリーブ粘土に至るまで、遺物は確認できない。2010-15地点の堆積様相とはほぼ同様である。



第23図 2010-18 トレンチ位置(1/800)、土層断面図(1/80)

2010-19 (泉大津市寿町71-1、-4,405-1、-3の各一部 406-3 平成22年12月6日調査 調査面積7.2㎡)

鉄骨3階建て共同住宅建設に先立つ調査である。南北に1箇所ずつ特レンチを設定し、重機で掘削を行った。盛土、耕作土、灰色シルト、灰オリーブ色粘土、オリーブ粘土に至る。灰オリーブ色粘土から須恵器、土師器が出土したが、いずれも非常に摩滅が激しい。この層は砂を含むため、水の流れとともに入り込んだ土器と思われる。遺構は認められなかった。本年度調査した2010-15地点、2010-18地点の近隣とはほぼ同様な堆積で、現況地表面から約1mは、人為的な利用が極めて乏しいと思われる。



第24図 2010-19 トレンチ位置(1/800)、土層断面図(1/80)

参考文献

- 財団法人大阪府文化財センター 2006『古式土師器の年代学』
- 木耳社 1990『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』
- 寺沢薫・森岡秀人
- 泉大津市教育委員会 2010『都市計画道路南海中央線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』(泉大津市文化財調査報告45)

発掘調査概報抄録

ふりがな	いづみおおつしまいぞうぶんかざいはくつちようさがいはう
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	30
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	46
編者名	虎間 麻実 土江 文子
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦 2011年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査対象面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とよなかいせき 豊中遺跡	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 とよなかちょう 豊中町956-5の一部 調査番号2010-01	272060		34度 29分 41秒	135度 25分 27秒	20100122	357.64	鉄骨コンクリート造2階建 社会福祉施設建設に伴う事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 とよなかちょう 豊中町3丁目115-11、-29 調査番号2010-12	272060		34度 29分 30秒	135度 25分 20秒	20100811	2,876.38	鉄骨平屋建店舗建設に伴う 事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 とよなかちょう 豊中町2丁目972-4の一部 調査番号2010-16	272060		34度 29分 39秒	135度 25分 29秒	20101122	125.82	鉄骨2階建共同住宅建設に 伴う事前調査
いけがせせき 池上曾根遺跡	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 そねちょう 竹根町1丁目98番1、 99番1、100番1、402番8 調査番号2009-15	272060		34度 30分 15秒	135度 25分 42秒	20091225 20100107	1.228	鉄骨平屋建店舗建設に伴う 事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 もりちょう 森町2丁目253-1、254、 255-1、256-1、3-4 調査番号2010-02	272060		34度 30分 31秒	135度 25分 36秒	20100329	2,514.27	木造2階建寄宿舎建設に伴う 事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 もりちょう 森町1丁目59番、91番の 各一部 調査番号2010-03	272060		34度 30分 41秒	135度 25分 37秒	20100427	1,278.46	鉄骨造3階建有料老人ホーム 建設に伴う事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 そねちょう 曾根町2丁目189-1、189-6 調査番号2010-04	272060		34度 30分 12秒	135度 25分 27秒	20090525	202.46	木造2階建個人住宅建設に 伴う事前調査
むじとりいせき 虫取遺跡	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 ひがしすけまちょう 東助松町2丁目359-8 調査番号2010-14	272060		34度 30分 41秒	135度 25分 32秒	20100913	68.28	木造3階建個人住宅建設に 伴う事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 もりちょう 森町1丁目55番2 調査番号2010-17	272060		34度 30分 41秒	135度 25分 35秒	20101129	474.15	鉄骨造3階建共同住宅建設に 伴う事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 あびこ 我孫子2丁目211番9 調査番号2010-06	272060		34度 29分 30秒	135度 24分 46秒	20100617	131.56	木造2階建個人住宅建設に 伴う事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 あびこ 我孫子1丁目421、422-1 調査番号2010-07	272060		34度 29分 40秒	135度 24分 45秒	20100621	2,703.63	鉄骨平屋建店舗建設に伴う 事前調査

ありがな 所収遺跡	ありがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査対象面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むしとりいせき 虫取遺跡	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 むしとりちょう 虫取町1丁目77-1 調査番号2010-09	272060		34度 29分 46秒	135度 24分 37秒	20100720 20100726	1,990.75	鉄骨2階建て店舗建設に伴う事前調査
	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 あびこ 我孫子1丁目421、422-1 調査番号2010-13			34度 29分 40秒	135度 24分 44秒	20100830	1,145	鉄骨造看板建設に伴う事前調査
ひらのつばいせき 七ノ坪遺跡	きたとよなかちょう 北豊中町2丁目467番1、 467番3、470番1の一部 調査番号2010-05	272060		34度 29分 51秒	135度 25分 25秒	20100607	164.38	木造2階建て個人住宅建設に伴う事前調査
しのめいせき 東雲遺跡	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 げじょうちょう 下条町252-1番地の一部 調査番号2010-08	272060		34度 30分 7秒	135度 24分 47秒	20100628	482.58	鉄骨2階建て個人住宅建設に伴う事前調査
	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 いけうちらちよう 池浦町4丁目169-1、175-1、 176、177、178-2、179-2、 180、181、182、487-2、289-3 あびこ 我孫子486-1、-2 調査番号2010-10	272060		34度 30分 1秒	135度 24分 52秒	20100726	14,289	鉄筋コンクリート造3階建て校舎建設に伴う事前調査
いけうちらちせき 池浦遺跡	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 いけうちらちよう 池浦町134番4、319番4 調査番号2010-11	272060		34度 30分 2秒	135度 25分 1秒	20100802	969.46	木造2階建て寄宿舎建設に伴う事前調査
	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 ことぶきちよう 寿町39番4 調査番号2010-15	272060		34度 30分 6秒	135度 25分 6秒	20100927	1,011.61	分譲住宅宅地造成に伴う事前調査
	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 ことぶきちよう 寿町39番1 調査番号2010-18	272060		34度 30分 8秒	135度 25分 8秒	20101201	1,120.07	分譲住宅宅地造成に伴う事前調査
	おおさかみいずみおおつし 大阪府泉大津市 ことぶきちよう 寿町71-1、-4、405-1、3の 各一部、406-3 調査番号2010-19	272060		34度 30分 10秒	135度 25分 5秒	20101206	577.51	鉄骨造3階建て共同住宅建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
とよなかいせき 豊中遺跡	2010-01		縄文	なし	丸貫鉢
	2010-12	集落跡	弥生	なし	なし
	2010-16		古墳 奈良 平安 中世	なし	なし
いけがせき 池上曾根遺跡	2009-15		弥生	落ち込み、柱穴、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器
	2010-02		弥生	なし	なし
	2010-03	集落跡	古墳	なし	土師器、青磁
	2010-04		奈良	なし	なし
	2010-14		平安	なし	なし
	2010-17		中世	なし	土師器
むしとりいせき 虫取遺跡	2010-06		弥生	なし	なし
	2010-07	集落跡	弥生	自然流路	弥生土器、土師器
	2010-09 2010-13		古墳	なし	須恵器
ひらのつばいせき 七ノ坪遺跡	2010-05	集落跡 生産遺跡 その他の墓	弥生	なし	なし
	2010-08	集落跡	古墳	なし	なし
しのめいせき 東雲遺跡	2010-10		古墳	なし	なし
	2010-11		中世	なし	土師器
	2010-15		なし	なし	なし
	2010-18		なし	なし	なし
	2010-19		なし	なし	なし

泉大津市文化財調査報告46

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報30

2011年3月31日

発行・編集 泉大津市教育委員会
生涯学習課
〒595-8686 泉大津市東雲町9番12号
TEL 0725-33-1131(代)
印刷 大栄印刷株式会社

